

みんなの健康ラジオ

『胃食道逆流症』

(2020年6月4日放送)

横浜消化器内視鏡医会

内野医院

内野 大輔

GERDの症状

- 食道症状

 - 呑酸（酸っぱい水が上がる感じ）

 - 胸焼け

 - 胸部つかえ感

 - 胸痛

- 食道外症状

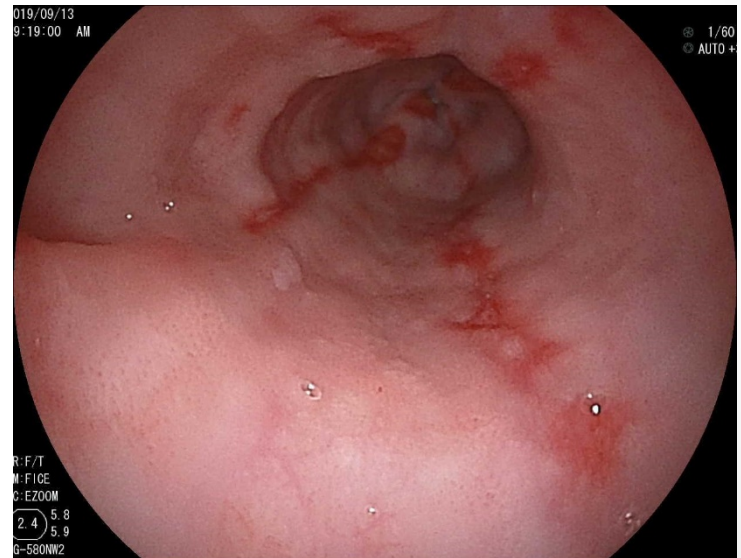
 - のどの違和感・しわがれ声

 - 慢性的な咳・喘息症状

 - 睡眠障害

GERDの診断

- 症状による診断
 - 胸焼け・呑酸があれば症状のみで診断
 - 治療薬を試しに飲んでもらって効果をみることもある
 - 他にのどの症状、胸痛、咳、睡眠障害などさまざまな症状で来院されるので注意深い問診が必要
- 内視鏡による診断
 - 食道炎の有無、重症度の診断にきわめて重要
 - 重症例では合併症予防に定期検査が必要
 - 他の疾患・特に食道癌を見逃さないことが大切
- 24時間pHモニタリング検査
 - 補助的な診断法



びらん性GERD（逆流性食道炎）

GERDを放置すると . . .

- 軽症のGERDは自然軽快も多い
- 背中が丸くなった人・肥満の人は重症化しやすい
- 重症化すると生活の質(QOL)が低下
- 重症のまま放置すると合併症をきたす
 - 食道狭窄・食道粘膜からの出血
 - バレット食道→食道腺がんの発生

GERDの治療

- 生活習慣の改善
 - 大食い、早食いを控える・夜遅く食べるのをやめる
 - 上半身を少し高くして寝る・左側を下にして寝る
- 薬物治療
 - 初期治療としては胃酸分泌抑制薬を4～8週間内服
 - 第一選択はプロトンポンプ阻害薬
 - 併用薬として消化管運動賦活薬や漢方など
 - 再発例には胃酸分泌抑制薬の維持療法を行う。
 - 軽症例には必要なときのみ服薬するオンデマンド療法が有効
- 手術治療
 - 薬物治療が効かないものや大きな食道裂孔ヘルニアがあるものには手術が施行されることがある

GERDの治療薬

- 胃酸分泌抑制薬
 - 酸の出方を抑える薬でもっとも効果的
- H2受容体拮抗薬
 - ファモチジンなど、効果はPPIより劣る
- プロトンポンプ阻害薬
 - オメプラゾール、ランソプラゾール、ラベプラゾール、エソメプラゾールの4種類あり、GERD治療の第一選択薬。
- カリウムイオン競合型アシッドブロッカー（ボノプラザン）
 - もっとも強力な酸分泌抑制薬で特に重症例や難治性例に効果的
- 制酸薬・アルギン酸
 - 酸を中和したり食道粘膜を覆うことで酸の刺激を防ぐ薬
 - 即効性はあるが効果は一時的
- その他
 - 消化管運動賦活薬（モサプリドなど）・漢方薬（六君子湯など）
 - 噴門の逆流を防ぐ力と食道蠕動運動を増強する作用
 - を持つものがある。補助的な効果にとどまる
 - 蛋白分解酵素阻害薬（カモスタット）
 - 胃の手術後など十二指腸液の逆流に対して使用